

クリニックレター 2015. 5月

〒663-8113 西宮市甲子園口2-8-31 医療法人岐黄会西本クリニック

TEL:0798-65-5111 FAX:0798-65-5115 HP: <http://www.nishimotoclinic.jp/>

このクリニックレターは、西本クリニックから患者様への情報を、すばやく、わかりやすくお伝えするためのお手紙です。原則月1回の発行で、スタッフが皆さんに知っていただきたい事をビビッドに発信していきます。

50年前・現在・10年後・30年後

2025年問題という言葉があります。2025年とは、団塊の世代(第1次ベビーブーマー世代)の多くが75歳、すなわち、後期高齢者となる年であり、日本がさらなる超高齢者社会になる象徴として使われる言葉ですが、実際にどのようなことが起こるのか、あるいはすでに起こっているのか、今回は、具体的な「数字」を拾いだしてみたいと思います。

A)1965年(50年前:東京オリンピックの翌年) B)2015年(現在)

C)2025年(10年後) D)2045年(30年後) で比べてみました。

	A)1965	B)2015	C)2025	D)2045
65歳以上割合(%)	6.3	26.8	30	37.7

3人に1人は65歳以上になる(私もその一人)

年間出生数(万人)	182	95	78	61
-----------	-----	----	----	----

東京オリンピックの頃と比べて年間出生数は半分以下(2045年には三分の一)になっている

年間死亡者数(万人)	70弱	140	160	165
------------	-----	-----	-----	-----

年間170万人の死亡者数は鹿児島県の人口とほぼ同じ

死亡数から出生数を引くと・・・毎年80万人の人口減であり、これは、富山・石川・山形県といったところの人口が毎年一つずつ減っていく状態である

その結果・・・

日本の全人口(万人)	9900	12660	12066	10221
------------	------	-------	-------	-------

すなわち、今後10年間で日本の人口は600万人減(兵庫県の人口550万人より多い!)30年で2440万人減(東京都と大阪府を合わせた人数が日本からいなくなる!)

ちなみに、今のペースで行くと、西暦3000年(30世紀を迎える年)の日本の人口は、なんと29人(!!!)という試算もあります。

では、最後に問題です。

「退職世代である65歳以上のヒト一人を、生産世代である20~64歳のヒトが何人で支えるのでしょうか？」 答えは裏面

問題の答え

1965年 **9.1人** 2015年 **2.1人** 2025年 **1.8人** 2045年 **1.2人**

どうでしょうか? 人口減少、超高齢化社会をどのように考え、どのように生きていくか。いままでの常識を根本から見直すような、パラダイム変換が必要なのでしょうか。

政治の世界も、今までのように右か左か、ではなく、「老年党」と「若者党」の2大政党制になったりとか・・・

生産人口を増やすために、小学校を5年、中高あわせたハイスクールを5年程度にして大学入学年齢を16歳に引き下げ20歳までに大学を卒業させ、就業させる、なんて、まるで、学徒出陣のような法案が出てくるかも・・・

もちろん、人口減少は、住宅事情が改善する、通勤ラッシュが緩和される、大気汚染が軽減する、などのよい面もあるため、ただ、人口を増やせばよいというものではありません。

なにはさておき、当面、我々にとって大事なものは、自分の健康寿命*を延ばすことだと考えます。

健康寿命* = 病気などによって介護を受けることなく、日常の活動性が保たれている期間

独り言

政府は物価上昇率を年2%にしたいというけれど、複利計算でいくと、物価が毎年2%ずつ上昇すると、10年で約22%の値上げとなる。

ということは、そのころの消費税が10%とすると(もっと上がっていると思うが)、今1万円のものを買うと消費税8%で800円の消費税額だが、10年後には同じものの値段が、22%アップして12200円となり、消費税も1220円になる。つまりこれは、消費税を22%にしたのと同じこと!

なんか、だまされていないだろうか? 物価が上がるのはそんなにいいことなのだろうか? 今後、年金が上がるなんてだれも信じていないだろうし、物価が上がらなくても、全然困らないんだけど・・・

クリニックレターのバックナンバーをお読みにになりたい方は、クリニックのホームページをご覧ください。